

第 61 号 「小笠原航路の船ぶね」(平成 28 年 3 月 31 日発行)

平成 28 年夏に「おがさわら丸」と「ははじま丸」が揃って新しくなった。同時に新造船となるのは昭和 54 年以来で 34 年ぶりとなる。これを契機にこれまでの小笠原島の復興、振興に貢献してきた船ぶねを振り返っておきたい。

第 62 号 「小笠原の歳月」(平成 29 年 4 月 1 日発行)

「小笠原の歳月」は昭和 51 年から 54 年に日本加除出版株式会社より発行された月刊「戸籍時報」に 26 回に渡り連載された随筆を再録したものである。著者の大里知彦氏は昭和 46 年から 47 年にかけて、小笠原総合事務所に法務主査として赴任し、戸籍関係の業務に当時の土地問題等でご尽力された方で、法務主査という立場から「小笠原の戸籍」をテーマにしつつ、ご自身の小笠原での日々の生活を綴っている。

第 63 号 小笠原諸島返還 50 周年記念「小笠原今昔」小笠原の黎明期から今日まで (平成 30 年 4 月 1 日発行)

編著者のセーボレー孝の先祖は 1830 (文政 13) 年に、当時、無人島であった小笠原諸島の父島に最初に移住したナサニエル・セーボレーである。その長男であるセーボレー孝の曾祖父ホーレス・セーボレーは明治政府による小笠原の再開拓と日本による統治が告げられ、その旨を了承した欧米人の一人である。本書では、欧米人の島への移住、江戸幕府の開拓、明治政府による再開発と近代化、戦争そして米軍統治、返還という幾多の歴史が記載されている。

第 64 号 「小笠原ガイド」 (令和元年 7 月 31 日発行)

この「小笠原ガイド」は、小笠原に行ったことのない方に小笠原の魅力・楽しみ方・見どころなどを知ってもらうために作成した。小笠原に行ったことのない方からは飛行機はあるのか、宿や食べ物等いろんな質問を受ける。この「小笠原ガイド」では父島・母島の位置や気候、宿、食べ物、産業そして父島や母島に行く「おがさわら丸」、「ははじま丸」などを紹介するとともに、小笠原発見から定住、戦争、返還等の歴史も載せている。

小笠原について知っている方にも、情報の整理や他の人への紹介に役立てるようコンパクトに小笠原の基本情報をまとめている。

第 65 号 「硫黄島に関する聞き取り調査記録」(令和 2 年 10 月 1 日発行)

第 65 号は特集号第 59 号と 60 号で取り上げた「硫黄島に関する聞き取り調査記録」の第 3 回目の発刊である。59 号、60 号で合わせて 10 名の方に、また 65 号では 4 名の硫黄島旧島民の方に貴重な体験をお聞きした。

皆様、硫黄島での幼少時代は、自然に恵まれ、食べ物にも不自由なく、大変に良い思い出を持っていた。しかし、昭和 19 年 7 月の強制疎開では、船に乗り、やっとの思いで本土にたどり着き、その後大変な苦労をされた。

戦後 75 年が過ぎ、皆様高齢化しており、今後「硫黄島」が風化しないよう記録として残した。

